

ISO/TC138 (流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類) 年次国際会議**1. はじめに**

ISO/TC138は、流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類に関する規格の制定・改正を担当している。2019年1月末時点で、合計316の規格が発行され、43の規格開発プロジェクトが進行中である。TC138は、日本が幹事国となってイニシアチブをとって活動中であり、正式メンバー(Pメンバー)は39カ国、オブザーバーメンバー(Oメンバー)は33カ国と、規模的にはISOの中でも比較的大きなTCである。

2. TC138の活動状況

TC138傘下には8のSCがあり、TC及び各SCの傘下には、おのおのWGなどの作業グループが存在し、全部で32の作業グループがある。SC1～SC7は、管の用途、試験方法、材料、周辺器具などに区分され、SC8は2013年に設立された、配管系の更生を扱うSCである。SC8も日本が幹事国となっている。第1表にその構成を示す。

第1表 TC138の構成

セクション	名称
TC138 (日本)	流体輸送用プラスチック管、継手及びバルブ類
WG8*	熱可塑性プラスチックパイプの基本寸法特性
SC1 (フランス)	下水、排水、雨水用プラスチック管・継手 (農業用を含む)
SC2 (スイス)	給水用プラスチック管・継手
SC3 (イタリア)	工業用プラスチック管・継手
SC4 (オランダ)	ガス燃料供給用プラスチック管・継手
SC5 (オランダ)	プラスチック管・継手及びバルブと付属品の一般特性 —試験方法と基本仕様—
SC6 (オーストリア)	強化プラスチック管・継手
SC7 (イタリア)	プラスチックバルブと付属品
SC8 (日本)	配管系の更生

()内は幹事国。*WG8はTC直下のWG

TC138では、各SC、WGが、それぞれの専門分野で規格を開発しており、2018年には、合計14件の新規規格が発行された。また、2018年のTC138における国際投票は、規格見直し投票とコミティー内投票を除いた、規格開発のための投票数が49件であった。

3. 2018年のTC138年次国際会議

TC138の年次国際会議は、2018年10月15日(月)から10月19日(金)の期間に、中国の杭州市において、TC138全体会議、TC138諮問会議、SC6を除く全てのSC会議及び、各SC傘下の10のWG会議が開催された。SC6会議及びその傘下のWG会議は、別途2018年9月にオランダにて開催された。今回の中国における会議の出席者は、24カ国から、計121名であった。このうち、日本からの参加者は16名であり、年次国際会議の参加者数としては、以前に日本以外で開催されたTC138年次国際会議の場合より若干多かった。各SC及びWGの会議では、各々の分野のエキスパートが集結し、主として規格開発に関する討議と決議を実施した。TC138の諮問会議及び全体会議は、TC138の幹事国である日本が全体を取りまとめ、各国の代表が参集して討議を実施した。最終日(10月19日)に開催されたTC138全体会議では、TC138全体に係る事項の報告、各SC会議での討議内容及びSC決議事項の報告、TC138としての各種決議事項の討議が実施され、合計3つの決議事項が承認された。

4. トピックス**(1) 日本提案の規格**

日本提案の規格としては、TC138/SC3/WG8の「ガラス短繊維強化ポリエチレン管システム 第1, 2, 3, 5部」とTC138/SC8/WG2の「非加圧地下排水及び下水網の修復用プラスチック配管システム－第9部：堅く固定されたプラスチックの内層を有するライニング」の5件があり、それぞれのWG会議で内容詳細が討議され、開発が進捗した。

(2) TC138関連SCの議長

2018年は、TC138関連のSC議長の任期の終了及び退任が3件あり、SC4、SC8の現議長の任期延長及びSC6の新任議長の選任が議決された。

(3) ISO中央事務局によるトレーニングセッション

TC138では初の試みとして、ISO中央事務局による、ISO関連のトレーニングセッションが合計3回開催された。参加者は合計52名で、ISOの現状と規約の改正内容についての紹介と質疑応答が実施された。

5. 今後のTC138年次国際会議の開催予定

2019年のTC138年次国際会議は、2019年10月14日(月)～18日(金)に、オーストリアのウィーンで開催の予定である。2020年は、欧州外での開催となる予定であるが、開催国は、現在のところ未定である。

(以上)